

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

2025年 7月 13日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 経済研究所

職 名・学 年 特定研究員(学振PD)

氏 名 木口 憲明

助 成 の 種 類	令和7年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	第14回エコノミックデザイン会議		
発 表 形 式	☐ 招 待 ・ ☒ ☐ 口 頭 ・ ☐ ポスター ・ ☐ その他(		
発 表 題 目	平等主義的関心を伴う不平等回避的選好の公理化 (An Axiomatization of Inequality-Averse Preferences with Egalitarian Concerns)		
開 催 場 所	イギリス・コルチェスター・エセックス大学		
渡 航 期 間	2025年 6月 20日 ～ 2025年 6月 27日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 ☒ 無 ☐ 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	350,000円	
	使用した助成金額	350,000円	
	返納すべき助成金額	円	
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費 目	金額(円)
		航空運賃	314,640
		宿泊費	87,000
		滞在費	
		学会参加費	
		その他	
	以上に助成金を充当		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) この度はご支援していただき誠にありがとうございました。円安の影響で航空券や宿泊費が高騰する中、ご支援のおかげで無事に学会に参加し、研究発表を行うことができました。		

成果の概要／木口憲明

このたび、イギリス・コルチェスターにあるエセックス大学で開催された第14回エコノミックデザイン会議（The 14th Conference on Economic Design）に参加し、口頭発表を行ってまいりました。本学会は2年に1度開催され、ミクロ経済学の中でも、特にゲーム理論や社会的選択理論に関する最新の研究成果が報告される場となっています。

私は今回の発表において、自身の消費量だけでなく他者の消費にも影響を受けるような意思決定行動を記述する個人モデルについて報告しました。このような意思決定を説明する主要な枠組みとして、①自身と他者の消費量の差に注目し、その差を小さくしようとする不平等回避的選好と、②最も不利な状況にある個人の消費量を高めようとする平等主義的選好という2つのモデルが存在します。いずれのモデルも実験的なエビデンスにより支持されており、個人は不平等回避性と平等主義性の両方の動機を併せ持っている可能性があると考えられます。

この予測を踏まえた私の研究では、両者の性質を同時に捉えることができる新たな効用関数表現を提案しました。そのうえで、この効用関数が実験結果と整合的であるかどうかを検討するために、公理的な特徴づけを行いました。具体的には、Fehr and Schmidt (1999)が提案したモデルに対する公理系の自然な拡張によって、私の効用関数が特徴づけられることを示しました。さらに、本モデルの強みとして、不平等回避性と平等主義性のいずれの動機が個人の中でより強いのかについて、定量的な比較が可能になる点が挙げられます。

発表は学会最終日の午前という、聴衆が少なくなる可能性のある時間帯でしたが、結果として多くの方にご来場いただき、有益なご質問やコメントを多数いただくことができました。また、自身の報告時間以外にも、他の研究者との交流の機会が非常に多く、3日間の会期を通して非常に密度の濃い時間を過ごすことができました。

このように、研究発表や交流を通じて多くの成果を得られたのも、ひとえに貴財団からのご支援のおかげにほかなりません。最後になりますが、改めて深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。